(十日夕刊)

磐城新聞

休刊 大祭 第一第三日曜
定價 壹枚二錢 壹ケ月五十錢 郵税十錢
廣告料 二行五錢 指定廿錢増
發行兼編輯印刷人 遠沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社

赤穂義士の處分

渡邊世裕

赤穂義士の命を助けたいとの希望は將軍綱吉にあつたそこでこの義士の處分を如何にすべしか各存寄りを申出でよと町奉行、勘定奉行、儒者奉行に命じた、この三奉行は有力なる政治家であるがこの二奉行は答申して曰く、徒頭を組んだり飛道具を用ゐたりして敵を打つのは餘儀ない事であるが彼等は忠義の家來であるから「永の御預け」の云ふ處分にしたいと申し出た、之に反して柳澤氏の愛顧を受てゐる、物茂郷は義は私である、法を公のものである、苟も法を犯したものを罰せねば天下の政道を如何せんとの議論であつた、林家即ち林大學頭は街上の御政治向がよいからして斯かる議士が世の中に出たのである、故に之が命は助けねばならぬといふ議論であつた、然るに上杉家に於ては生存させてはよろしくないとの考へよりして紀州家に賴つた、紀州家と上杉とは親類である紀州家よりは將軍の夫人が來てゐる關係上將軍の夫人を動かし將軍の母桂松院を動かして遂に將軍の心をして切腹に定めさしたやうである。然るに將軍は尚ほ許してやりたいので上野の寛永寺の宮さんが正月の年架に登城された、宮さんが命乞ひさるれば罪人は許すのが例である、ので將軍より宮樣に向つて暗に命乞ひせよと謎しだのであつたが、宮樣はこの事にふれずしてよそ事を話して居られた、そこで愈々救ふ途がなくなつた、後に宮樣はさう云はれたがの時程困つた事はない助命を乞ふと大石以下の中には青年もあるから生かしておくと反つて將來名譽を害することとなる忠は獻しては居るといはれる義士たる面目を申

渡したのは敵を打つたのが惡いといはない只多數の人が寄り合ふて飛道具なぞを持ちて敵打をしたのは公儀の威光を恐れぬ所爲として切腹を命じたのであつた、その後に至つても此處分問題には議論が絶へない、佐藤一齋は義士に反對論であり他の多くの學者は義士稱贊論である、義士稱贊論の方が勝を制してけふまで大石以下が義士として大いに追想されつゝある所以である

今宵

葉山和郎

今我れは
四角なる蚊張に
横たはりてあり
おゝ靜かな今宵
雨は降る
かすかに聞く
子等のねいきも
いねつる耳に
博へ流るゝ
夜半の鐘の音も
おゝ中和!
そのものゝの如く――
靜かな今宵
雨は降る

明日の吉凶

新曆 七月十一日
舊曆 六月五日

▲一白 大願の日何事にも機を逸せざる樣にすべし▲二黒 短慮なる時は萬々物成となく失敗に終る▲三碧 取り極め事は注意さざれば後に至り口舌あり▲四緑 僥倖なる日には非ざれども着實なれば報いあり▲五黄 調子に乘る時は思はざる邊より口舌出づべし▲六白 根氣強く働きて倦まざれば樂き晩發に逢ふ▲七赤 想ひを焦すのみにて壯圖意の如く成らざる日▲八白 不得手を持ち込まれて思案に暮餘る日▲九紫 物成就する吉、入學旅行開店吉

小説 死を超ゆる者 (33)

三上於菟吉作 布施平八郎畫

怖るべき暗示(六)

ふと考へた勇は、その人がもし眞の自分の父親であつて、その父親がもし自分の此の苦しみを知つてくれたら、さぞかし柔しい手を伸べて救濟を惜しまないかも知れない、父親と言ふのは誰だらう、何者だらう?此の自分を此の世へ生れ出さしたその男は?

しかし直ぐに彼は自分を罵つた何處迄貴樣は恐かしいのだ!氣弱者だ!その人にしてかうだ、母親の胎內にゐるうち、はやくも自分を捨てた人間ではないか!貴樣には親もない――身よりもない!勇は何と思つたかフラ〳〵と立上つて、薄暗い五燭の電燈がともつてゐる渡廊下を辿つて母家の方へ行つた、彼は足音をそそめる樣にして空く灯だけが輝いてゐる部屋々々を横に見て廣椽を歩いて行つた、ふと荒々しい足音がして女中の一人が驅けて來た、後から棒を持つて追つて來たのは順造といふ少年であつた

「若樣!、順造樣がいけません!と、お菊といふ娘はあまり亂暴な子供のいたづらに途方に暮れて勇を見かけて叫んだ

「にひさん!お菊は僕になぐらせないんだよ!お菊さへてたくれよ、お菊を!」

もう十二にもなつてゐたか、少し智惡のたくれた順造は、柄に似合はぬ甘つたれ聲で勇に言つた。

勇は憂うつな眼で少年を眺めでやさしく頭をなでた

「女を、いぢめるのはいけないよ、もう遲いから寢なければいけない――お父さまは、どうなすつてゐるね」

「お父さんは今お客樣と酒を呑んで居るよ」

「ぶん、お酒を上つてゐるのか……さあ、菊、もういぢめないそうだから連れていで」

「若樣、もう大丈夫で御座いますか、又直ぐだゝをこねにくると困りますが、私は心配でなりませんが宜しう御座いませうか」

「あゝ大丈夫だよ、ねねいゝ順ちやん、もう菊をいぢめちやいけませんよ、男は女をいぢめるもんぢやないよ、早く行つてお寢みなさい」

勇はそのまゝ自分の部屋へ戻つて行つた、父親は酒を呑んでゐるそうだ――酒に醉つた末では乾度ぐつすりと深い眠りに陷りだらう――勇は子供の時からあの父親の寢間の次に据ゑてある家內用の金庫の開け方をよく知つてゐた、ほんに僅か庭に必要な額を納めて置くだけの金庫であつたから鍵はいつも同じ部屋の小さなデスクの抽出に入れてあつた

醉つた後では深い眠りに陷るだらう――勇は、またさう繰り返して胸の中に呟いて心ひそかに我ながら身震ひした

彼は再び居間に歸つた、そして自分がたとへ盜みと言ふ罪惡を犯したところが僅かな金を持つて家出をしたことをむしろ此の家の主人夫婦はよろこぶであらう――彼等はもう栢續問題に就て氣をもむ必要がなくなるのだといふやうな身勝手な言ひ譯けを考へて見た、しかし彼にはまだ確然とした決心はついてゐなかつた

中元暑中の御贈答には
體裁と實用とを兼ねた
ツルヤ石鹸を
その他優美な品が
皆樣の御氣に召す樣
豊富に取り揃へてあります
平 四
ツルヤ

釀造元 清世界 銘酒
各炭鑛御用達
石城小名濱町
吉清水屋
小野晋平
電話六番

新築移轉
耳、鼻、咽喉科
合津醫院
平町仲田町七一 (電話五五九)

植田町本町
前田醫院
…入院隨時…
電一二四番

內臟外科
外科一般
花柳病科
入院隨意 自炊の便あり
平町田町大通り
安齋外科醫院
電話四三六番

特賣!!
たひら正宗 福島縣清酒品評會一等賞受領
花春 同優等賞受領

鹽屋
醬油釀造元
山崎合名會社
電話一〇番

內臟外科
骨關節外科 專門
藤本順

整形外科
產婦人科
院長 木村寅次郎

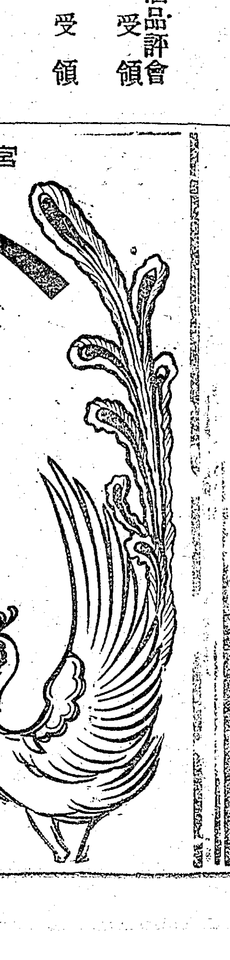
外科
婦人科
平町新川町
木村醫院
電話一六四番

外科
婦人科
內科
X光線科
外科一般 耳鼻科 花柳科
產科 人 外科
赤心堂病院
平町田町(電四七五)

化粧くづれのない
固煉白粉
一 汗で化粧くづれにお困りの方は、是非ホシ美固練白粉をおつけ遊ばせ。
二 ホシ美固練白粉は、化粧くづれのない上にノリ、ノビがよく、化粧榮のする特徴を有つ[illegible]ります。
三 このホシ美固練白粉こそ、皆樣の御滿足を購ふことの出來る品でございます。
ホシ美固煉白粉

東京 星製藥株式會社 大崎

宮內省御用達



ヒゲタ醤油
釀造元 銚子醤油株式會社
平町田町
特約店 廣瀬支店
電話五四番

青麻山
中風靈藥
定價一週分九〇 二週分一、七〇 三週分二、五〇
動脈硬化症、腦溢血、半身不隨、言語難澁、其の他中風より起れる諸症に偉効を奏す
……是非御試用を勸む……
代理店 平町五丁目角
山野邊藥局

親は我が子だと遺言し 其の子は親に非ずと主張

行路病者の死骸引取に絡まる 平町近來の珍問題

平町役場の庶務課と税務課とが總がゝりの智恵を持ち寄つて眞實の親子か赤の他人かの調査判斷に困り抜いてゐる珍事件が出來上つた話の筋は去る七日福島市役所から平町役場に對し

六月中旬福島署から引繼がれた行路病者の原谷藤吉を收容看護中の處死亡したので假埋葬に附したが藤吉は臨終に私は北海道上川郡東川衣東八號の生れで實子原谷藤市(三九)が目下平町柳町一番地に居住してゐるから死骸は同人に引き渡して貰ひたいと遺言して死んだ

そこで福島市役所では假埋葬費用八圓五十錢の徴集方と死骸の引取り方を平町役場に依頼越して來たので税務課では直ちに柳町の原谷藤市に對し右の旨を傳へると藤市は顔の色を替へ

どんでもない話だ、私は正しく北海道の生れであるが三才の時父母に別れ全く孤獨の前半生を送つて來たので斯んな父がある事は信じられぬ

と頑強に主張して遺骸の引取り處か八圓五十錢の埋葬料は鐚一文も出さぬので町役場も殆むど手を焼き徴集不能にするかどうか處分に迷つてゐるが右藤市の寄留戸籍簿によれば父だと稱し遺言して死んだ藤吉の申立と同一なる

北海道上川郡東川衣東八號戸主藤次郎甥とあり死んだ藤吉と藤次郎が兄弟とすれば正しく藤市の父に相違ないので

平町役場では更らに原籍地役場に紹介する事となつたが藤市は目下縣立磐城高等女學校の常傭人夫で前半生には可成り數奇な物語りが秘められてゐる所から見て此の親子眞疑の判斷は相當の困難が伴ふ者の樣であるが果して親か赤の他人か今大岡の存在せぬ限り或は謎の儘に埋り去らるゝかも知れぬ近頃の珍事件である

植田自動車 總會

役員と賃金協定

植田自動車協會總會は八日午前九時より植田署内に開催縣協會協定に基き支部規約を制定し縣協會維持費を毎月自動車營業者五十錢自動車所有者及販賣業者廿錢本支部費自動車營業者一圓自動車所有者及び販賣業者五十錢宛納入する事に決し役員改選に就ては植田署に一任し田口植田支部長より左記指名決定された

△副支部長渡邊重三郎△幹事長北郷廣作、鈴木子之吉△常議員大平芳春、坂本淺吉、青天目信次郎磯藤義弘

海軍々樂隊

映畫と講話開催

平町在郷軍人海軍班では海軍簡閲點呼の爲め軍艦五十鈴が小名濱港に入港を機會に來る二十日午後六時聚樂館に於て海軍々樂隊並に活動寫眞會を開催する事となつたが五十鈴機關長佐々木中佐(平町五丁目出身)の講話ある筈

平商友會が愈々自治的に變革

會長以下幹部も決定し 將來獨自の活動

平商業學校の同窓生より成る平商友會は去る大正五年同校第一回卒業生によつて創立され現在會員數六百三十餘名に達し東京支部その他の設備を見るに至り相當自力なる團体機關である而して從來は商業學校長を會長に推戴し會務の進行を計つて來たが會員中の先輩者は既に

相當年輩に達し平町の中堅となつて活動し得る實力を有して來たので商友會を何時までも促れた月並な同窓會式に埋もらしてゐく事の不利不便と一は自主獨立の精神涵養の意味から之れを自治的に變革し社會的有意義な實際活動機關たらしむべしとの有力な輿論が擡頭し去る二月の臨時總會に於て組織の改革を決議し更に這般の總會に於て役員選擧の結果

(會長)谷口長治(副會長)室橋光(幹事)鈴木武雄、菅本利雄、比佐三郎、大村一郎、齋藤廣吉、椋木正憙、山本幸平、松本通之(商議員)金成弘藏外廿五名

諸氏當選就任し愈々社會的に活動の火蓋を切る前提として來る九月初旬平町に縣下の商業中心のポスター展覽會を開く事に決定其の他各種事業の計劃中であるが同會は基本金約三千圓に達し毎年八九百圓の基金增殖を見て行くので將來は

財團法人 組織となし同窓會の實体を失はず平商工會その他と連絡して有意義なる活動の範圍を擴大すべく會長以下幹部間に熱心奔走中で商業中心の平町に同會の活動は相當期待されてゐる

お中元奬勵論

せきね生

昔は正月十五日を上元と云ひ、十月十五日を下元と云つた、中元は其の中間に設けられたもので七月十五日になつてゐる、所が現在では盆前に何か贈り物をする事を中元といふかの様に習慣づけられて仕まつた、

佛教の盂蘭盆會と云ふものに依ると盆の供養は過去七代前の父母並に祖ふ母とか現在のふ母の苦難を救ふ即ち難儀をしてゐるのを助けんが爲めに多くの坊さんに盆供養といふことで、即ち七代のふ母の菩提を祈ると共に現在の父母の壽命を祈ると云ふ此の二つを乘るものが即ち盆である然るに何時の間にか盆と云へば唯死んだ人の靈を招待して之を祭りすると云ふ事になつて靈祭りと云つてゐる、人情に於て亡くなつた人の靈を祭るといふ事を同時に現に生きてゐるふ母の爲めに供養するといふ事が甚だ不吉の様で、而も亦親に對しても氣の毒といふ樣な人情からして、現在のふ母の供養をば盆の供養から引離したのである、そしてこれが生靈の祝儀といつて盆の供養の事を靈祭りといつて居る、これは死んだ人の靈を祭ることである

今から五百年前足利時代の武家は勿論のこと宮中にも行はれた元は民間から起つた風俗が自然上層階級にも及ぼしたものであるさうして宮中の記録によつて見ると十五日迄の闕吉日を選んで盆のことも[illegible]り又肴の獻上もあつて[illegible]のれ祝である、宮中では此のことをに祝といつて生靈とはいはない、將軍家ではた目度くいつてゐる、人情の上から分離して現在のふ母のた祝といふものを引離したしたのじある、此の儀が更に擴まつて自分の父母のみならず親戚の父母及び尊長者をも相互に祝ひ合ふやうになつた、之が一轉して平素恩儀を受ける人にも及んだのである、貝原益軒は「七月十三日生靈の祝儀として靈祭りより親方へ子分から酒肴を贈り、饗應をなす、何時の世からか始まりけん、今の世俗のすることとなり、死せる人はなき靈を祀るに〇生ける人は相見るか嬉しきといふ心なるべし」とこれに依つてみると七月十三日にやるものと思ふ

生靈の祝儀といふことが今日では中元となつたので元は父母に孝養をつくすことが主であつたが、それが轉じて現在のふ母の外に恩人に對しても謝意を表する儀となつたので現今は殆ど因襲的に行つてゐる樣であるが矢張り我國民性の恩儀を忘れざる志から起つたものである

全國第四位に在る綴驛の貨物取扱

一ケ月二十萬圓の收入で 平驛の約廿四倍

綴驛貨物取扱所の六月中の發送貨物は殆んど石炭であるがその數量を見ると有賃五千四百三十車(六萬五千四百二十六噸)省用品二百五十一車(三千五百二十五噸)無賃二千二百九十四車(三萬九百九十二噸)小口扱は三萬二千九百八十五斤特別小口は四百二十六斤で此の總收入額は驚く勿れ十九萬五千三百六十二圓三錢で全國中でも第四位の收入高で一日平均にすれば約く六千五百十二圓の收入があり平驛取扱所の同月に比較すれば約く二十四倍の多額を示してゐる

水泳上の注意

磐中 山崎先生談

遊ぐ法の中でもブレストストローク、即ち平泳又は胸泳ぎと云はれる泳方が最も一般的であり無理がなくてよい遊泳法と云へる何故かと云ふと、理學上からも醫學上から考へても卓越してゐるからである、年齢を問はず身體の鍛錬に適合して居り永續的で陸上で云ふならば歩く樣なもので、安全な上に眼界が廣い、それで實用的であり、趣味の黨から考へても卓越してゐるのである、そこで此の胸泳ぎは世界各國至る處で行はれてゐる、歐米諸國で初心者にはきつと此の平泳を敎へる、泳方は大體蛙の泳方に似てゐる即ち腕――(一)身體の輪と垂直に水面下に伸ばした腕は掌を下に向けた儘徐々に後方におす、掌は互に反した親指をもつて胸の眞下に左右を集める、此の時合掌の型になる(二)次に腕をその儘前方水面下にだす、伸ばし終つたい脚は第三の運動をしてゐる(三)次に伸びた腕の儘廣く双方に擴げて肩と一直線とする、此の際掌捻り小指が母子より稍高くなつてゐる

脚――(一)伸ばした脚は膝を開きつゝ踵をつけた儘體軀の方に引きよせる足先は外方に向けてゐる(二)次に各關節をのばしつゝ側方につよく蹴立てる、足は此の際外方に捻られ、足の裏でもつて爪先に力を入れつゝ水を蹴る(三)伸び切つたら速かに閉ぢ合せる、此のけいこをするには腕は立てた儘で出來るが足は横木にぶらさがつて練習するがよい、兩方一しよに練習するには腰掛臺にはらばつて行ふがよい、その後は水中でけいこするのであるが、その際に水の抵抗力の關係を考へながら練習するのである、呼吸は腕を左右に擴げ脚を下方におしつゝ體軀に引よせる時は氣吸腕を前方に差しのばしつゝ、脚を蹴立てゝ閉ぢる時に呼吸をするのである、即ち腕を外方に擴げる時に呼吸前に突進する、時は呼吸をするのが合理的である平およぎは餘りあせると却て速力が鈍るものであるから、おちついて靜かにおよぐがよい(文責記者)

平町壯丁學力

平町 今年度壯丁檢査の學力調査は十三日より九日間平第一小學校内に執行されるが調査委員は曾我第一校長外である に守るべき注意事項其の他を協議する二七日には尋五以上の球算競技會を開き學級を決める筈

認可促進

平町上水道 遠藤助役下京

濱口内閣ノ緊縮方針により小名濱商港等事業年度繰り延べが傳へられるに至つた事昨報の通りであるがさらに本年度において工事計畫をなしつゝある石城郡内各町村關係事業も或は不認可の悲運を免れざるものとなし既定計畫の遂行について運動を開始することゝなつたなほ本年八月中旬までに認可の運びに至り直に着工の豫定だつた平上水道の擴張工事等もこの緊縮計畫のために延期を傳へられたので九日遠藤平町役は急遽上京してその筋に認可促進の運動をなした

平校耐熱行軍

平第一小學校では二十三日の月次運動會に四年以上は赤沼方面に耐熱行軍をなし二年生は神谷村立鉾神社三年生は草野村花園神社である

平署管内の犯罪激增

今年の上半期

平署に於ける一月より六月までの犯罪發生數は六百八十六件で檢擧數は七百二十五件の好成績で檢擧人員は男四百九十四人、女三十七人合計五百三十一人であるが犯罪別に見ると窃盜が第一位の三百五件、詐欺百二件、横領四十五件、賭博三十三件、傷害四十六件、業務上過失傷害二十件、失火八件、其の他百二十七件となつてゐるが窃盜發生の月別は一月五十一件、二月四十八件、三月六十件、四月三十八件、五月四十件、六月六十六件であつた

平一校級長會

平第一小學校では二十五日級組長會を開き夏季休假中に互

各團体お引越

來る三十日限りで 元の會議室へ

平警察署の移轉から平町元郡役所にたいて事務をとつてゐた石城郡名種團体では縣から元會議室に移轉すべしとの指令に接したので大いに狼狽し縣當局に對し各種團体の專用の建物を新築するやう陳情をなしたが縣としては平署の移轉は年度變りと同時に行ふ豫定であつたが遅れてゐたのであるから團体專用の建物を新築するまで移轉するのは不可能であるとの意向を持ち現家屋の修理も開始したことゝて結局各種團体は縣の指示どほり來る二十日會議室に移轉することに決定した

團体としては移轉後において專用建物の新築について極力運動をなし實現をはかることになつた

平町の賃金調べ

最高は煉瓦職人 一圓以下の洋服屋

平町役場では現在の市内に於ける各種職人、勞働者の賃銀を調査中であつたが一日平均に見ると最高部で煉瓦製造職人で二圓八十錢を筆頭に左官、石工、植木職の二圓五十錢でこれらは生活も有福であるが二圓三十錢低度は建具、疊刺、指物、屋根葺、木挽等で一圓二、三十錢は菓子職下駄、靴、染物、塗師、袋物一圓以下と云ふのは洋服仕立、其の他で農作日雇は男一圓三十錢中均、女一圓中均であるの狀況を講演すると

主事會議

郡下青訓所 講演と教練

石城郡内に於ける青年訓練所主事會議は九日午前九時から平町磐城中學校内に開催したが十日午前九時からは郡内青訓教練指導員の講習會が同校に於て開かれた課目及講師は左の如し

青年心理と青年訓練(一時間)講師坂田縣屬、吉田社會主事補教練(五時間)指導員磐中教諭高橋少佐

石城教育部會 夏季講習

平第一講堂で

石城郡教育會部會主催の夏季講習會は來る八月二日より四日間平町第一小學校講堂に於て開催せらるゝが講習課目は職業指導並に性能檢査に就てで講師は東京地方職業紹介事務局長遊佐敏彥氏中央職業紹介事務局囑託谷口政秀氏であるが出席者には講習證書を授與する

平町職員修養

平町立學校職員の修養會は十一日午後二時から平第二小學校作法室に於て開き第一二校長の東二十六縣教育視[illegible]

平校時間短縮

平第一二小學校は十二日より七時半始業に改正するが授業時間は從來四十分を三十五分休時間十分となつた

平校學力調査

平第一小學校尋二以上の學力調査は十三(算術、地理)五(讀方、歴史)六(理科)の三日間行はる

泉消防の映畫

石城郡泉村消防組にては來る十三日同村小學校を開場とし て本春聯合檢閲に撮映せるフイルム公開及火防傳宣活動寫眞會を開く

磐崎後任校長

石城郡磐崎第二小學校長岩崎清雄氏は過般不慮の危禍に遇ひ死亡したので後任校長を選任中同校次席小泉義浩氏が七月一日付を以つて就任することになつた

鰹稀薄

磐城丸の調査

水産試驗場の磐城丸は去る二日小名濱を出港鰹漁場の調査を行つたが三日は海がれ調査不能となりそれより五日まで金華山沖を調査したがどうしたものか一ケ所も魚群を認めず大しけを食つて七日午後二時一先づ小名濱へ歸航した

平町田町
高久病院
電話五一〜三番
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽清
藥劑士 佐竹菊雄
内科小兒科、外科花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科

生花教授
池ノ坊流
生花を懇切叮嚀に御敎授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町十五丁目通り
須藤まつの

改正 片濱乘合自動車時間表

平發	江名發
五時三十分	五時三十分
六時三十分	七時
八時	七時五十分
九時	九時二十分
十時	十時三十分
十一時	十一時半
十二時半	一時
一時五十分	二時
三時	三時三十分
四時	四時四十分
五時二十分	五時四十分
六時三十分	六時四十分

平のりば 四丁目 和泉屋前
新川町 車庫
江名のりば 沖見屋 電話十四番
松屋
鈴木片濱自動車部 電話二一一七 車庫呼出電話一四二

夜間診療
胃腸 内科 十二指腸虫病 專門 内科部
梅毒 淋病 婦人病 皮膚病 專門 外科部
松村胃腸性病科醫院
(平南町電話一〇七番)

入院隨意(自炊の便あり)
X光線
外科專門
平南町
上田外科醫院
電話一二九